會務報告

第26卷第4號　昭和15年4月

役員會

第23回理事會（昭. 15. 2. 14.）

出席者：八田會長，堀越副會長，山崎，高橋，和田，稻葉各理事，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任

議事

1. セメント增產並に配給に關する意見書を別紙案（省略）の通り商工大臣及企畫院總裁に提出することゝせり。

2. 職員臨時手當を昭和15年1月より別紙案（省略）の通り支給することゝせり。

3. 職員臨時手當支給に伴ふ昭和15年度豫算を別紙（省略）の通り追加することゝせり。

4. 靜岡市大火に際し本會代表として視察調査に出張せられたる和田重辰，春藤眞三，佐藤慶次，杉戸清の諸君に對し記念品を贈呈する事とせり。

5. 2ケ年以上會費を滯納せる別紙會員及准員53名に對し滯納會費完納まで權利を停止することゝせり。

6. 靜岡市大火災害調査報告書は別刷を作製し關係各方面に配布することゝせり。

第1回理事會（昭. 15. 3. 4.）

出席者：中村會長，谷口副會長，和田，廣瀨，瀧尾，富永各理事，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報告

1. 理事變更並に事業報告及決算報告を文部大臣及東京府知事に屆出せり。

議事

1. 北海道支部昭和15年度豫算は收入の部に於ける15年度會員增加見込額を特別員增加見込額と解釋して承認することゝせり。

2. 昭和15年度會誌編輯委員會委員長及委員を次の如く依囑することゝせり。

委員長　廣瀨孝六郎君

委員　安藝皎一君，大石　勇君，岡　巖一君，黑澤喜代治君，佐藤輝雄君，友永和夫君，樋浦大三君，藤野義男君，本間　仁君，松村孫治君，吉田朝次郎君

3. 昭和15年度支部長會議を4月3日開催することゝせり。

4. 第29回視察旅行を6月下旬開催する豫定にて次回までにプログラム原案を作成し協議することゝせり。

5. 映畫會を4月に，見學會を5月に開催することゝし次回までにプログラム原案を作成し協議することゝせり。

6. 退任理事に對し記念品を贈呈することゝせり。

7. 本會內に土木學會ゴルフ部を設置し規約を別紙（省略）の通り制定せり。

8. 近畿，中國，四國，北九州及朝鮮地方旱害の正確なる記錄作成の爲，昭和14年旱害調査委員會を設置することゝし其の要綱及委員氏名原案を次回までに作成し協議することゝせり。

第12回常議員會（昭. 15. 2. 14.）

出席者：八田會長，堀越副會長，山崎，高橋，和田，稻葉，伊藤，春藤，高橋(三)，瀧尾，松田，松本各常議員，田淵，神保（代大坪）兩支部長，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任

報告

1. 役員選擧投票開票の結果別紙の通り報告せり。

2. 關西支部第2回役員會議事を報告せり。

3. 日本工學會臨時社員總會議事を報告せり。

4. 日本工學會評議員會議事報告せり。

議事

1. 中部支部昭和14年度決算報告を別紙（省略）の通り承認せり。

2 東北支部昭和14年度決算報告を別紙（省略）の通り承認せり。

3. 北海道支部昭和14年度決算報告を別紙（省略）の通り承認せり。

4. 西部支部昭和14年度決算報告を別紙（省略）の通り承認せり。

5. 東北支部內規第1條の商議員12名を15名と變更の件を承認せり。

6. セメント增產並に配給に關する意見書別紙（省略）を和田理事持參商工大臣及企畫院總裁に提出すると共に現下の實情を敍述し當局と懇談することゝせり。

7. 昭和 15 年 1 月より別紙案（省略）の通り職員臨時手當を支給することゝせり。

8. 職員臨時手當に伴ふ昭和 15 年度追加豫算を別紙（省略）の通り承認せり。

役員選擧の結果

投票人員 825 名

會長當選 782 票 中村 謙一君

次點 5 票 谷口 三郎君 2 票 新井 榮吉君
2 票 草間 偉君 2 票 丹羽 劒彥君
2 票 前川 貫一君 2 票 宮本武之輔君
2 票 物部 長穗君 2 票 米元 晋一君
以下略す

副會長當選 784 票 吉田德次郎君

次點 3 票 鈴木 雅次君 3 票 田中 豐君
3 票 宮本武之輔君 2 票 安藝 杏一君
2 票 石井頴一郎君 以下略す

常議員當選（改選） 770 票 稻葉權兵衛君 769 票 富永 正義君
766 票 井關 正雄君 765 票 大岡 禮三君
765 票 金子 柾君 765 票 廣瀨孝六郎君
759 票 水谷 當起君 757 票 青山 秀雄君
748 票 藤井松太郎君 745 票 目黑 雄平君

次點 17 票 倉田 玄二君 11 票 成瀨 勝武君
10 票 青木 楠男君 7 票 岩澤 忠恭君
7 票 吉田德次郎君 6 票 瀧山 與君
6 票 岩崎 富久君 5 票 坂元左馬太君
5 票 德善 義光君 5 票 柳生 義郎君
5 票 小林 紫朗君 以下略す

常議員當選（補缺）741 票 倉田 玄二君

次點 9 票 目黑 雄平君 2 票 山田 博愛君
以不略す

第 1 回常議員會 （昭. 15. 2. 22.）

出席者： 中村會長，谷口，吉田兩副會長，稻葉（權），稻葉（通），岡田，金子，鈴木，瀧尾，富永，廣瀨，松本，水谷，和田，各常議員，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任

議 事

1. 昭和 15 年度理事選擧の結果次の諸君就任せり。
稻葉權兵衛君（新任） 稻葉 通彥君（重任）
瀧尾 達也君（新任） 富永 正義君（新任）
廣瀨孝六郎君（新任） 和田 重辰君（重任）

2. 昭和 15 年度各部長に次の諸君就任せり。
總務部長 和田 重辰君 經理部長 稻葉 通彥君
編輯部長 廣瀨孝六郎君 調査部長 稻葉權兵衛君
法制部長 瀧尾 達也君 東亞部長 富永 正義君

3. 入退會の件別紙の通り承認せり。

總務部記事

文化映畫委員會 （昭. 15. 2. 12.）

出席者： 青木委員長，金森前委員長，瀧尾，澤，金子，下山各委員，德丸君，小野寺庶務主任

日活と連絡を圖るため青木委員長並に金森前委員長が藤田日活專務と會見したる顚末の報告あり次で本委員會此後の事業に就て協議し次の事項を決定せり。

1. 內務省東京土木出張所及金森博士所有の既製映畫「荒川の水を治めて」其他に依り可成的速かに文化映畫を製作することゝせり。

2. 文部省映畫課當局を招致して談話會を開催し文化映畫に關し意見の交換を行ふことゝせり，而して文部省當局招致に就ては委員長に一任せり。

3. 勝閑橋映畫完成に努むることゝせり。

文化映畫委員會 （昭. 15. 2. 17.）

出席者： 青木委員長，瀧尾，金子，下山各委員，德丸君，小野寺庶務主任

1. 日活藤田專務よりの申入れに依り土木文化映畫を準備すべく不取敢「荒川の水を治めて」の編輯替に着手せり。

文化映畫委員會 （昭. 15. 2. 19.）

出席者： 青木委員長，瀧尾，下山各委員，德丸君，小野寺庶務主任

1. 土木文化映畫「荒川の水を治めて」の編輯替を了せり。

2. 日活企畫部長の來會に際し映寫すべき映畫の選定に就き協議せり。

文化映畫委員會 （昭. 15. 2. 21.）

出席者： 青木委員長，瀧尾，金子，廣田，横田，下山各委員，田中榮三君（日活文化映畫部），德丸君，中村書記長，小野寺庶務主任

本夕の委員會は豫定の如く日活企畫部長代理として文化映畫部より田中榮三君の來會あつたので青木委員長から土木學會文化映畫委員會設立の趣意並に本委員會の使命に就いて委曲說明し，田中君より文化映畫に關する說明を聽取し，文化映畫法，製作，取扱等に就いて隔意なき意見の交換を行つた。

食事後本會が曩に準備して置いた映畫「荒川の水を治めて」，「勝閑橋」，「歐米ところどころ天然色映畫」等數卷を映寫して日活文化映畫部に於ける土木文化映畫製作上の參考に供し感銘を與へ 9 時 30 分散會した。

本夕の會合は本委員會の發展と土木文化映畫製作，普及等に對して極めて有意義に終始したことを附記す。

晩餐會

昭和 15 年 2 月 22 日常議員會終了後午後 6 時より丸之內會館に於て新舊役員並に東京府在住地方委員（內務，鐵道關係を除く）を招待し晩餐會を開く出席者次の如し。

出席者：中村會長，谷口，吉田兩副會長，和田，稻葉（通），稻葉（樞），岡田，金子，鈴木，瀧尾，富永，廣瀨，松本，水谷各常議員，八田，那波，名井，眞田各前會長，伊藤前常議員，大竹，岡部，黑河內各地方委員

席上中村會長より退任役員諸君在任中の御努力と地方委員諸君の御盡力に對し感謝の意を表し，併せて今後も絕大なる御援助あらんことを切望す。次で八田前會長より退任役員を代表して挨拶あり午後 8 時盛會裡に散會せり。

編輯部記事

第 3 回會誌編輯委員會（昭. 15. 3. 13.）

出席者：廣瀨委員長，大石，黑澤，佐藤，本間，村，藤野，友永，吉田，樋浦，岡各委員，志村編輯囑託

1. 第 26 卷第 3 號所載原稿謝禮を決定せり。
2. 第 26 卷第 4 號登載記事に下記の如く追加せり。

論說報告：相對二邊が單純支承地の二邊が自由なる矩形の振動に就て（會，工博，井口鹿象），靜岡大火視察報告（會，春藤眞三，會，佐藤慶次，會，杉戸清）

3. 第 26 卷第 5 號登載記事を次の如く決定せり，但し第 4 回工學會大會土木部會講演（前刷程度）を一括して 5 號に登載する場合は之を次號とすることゝせり。

論說報告：固定梁の軸張力實用計算法（准，櫻井豐三），軍馬の池漏水系統の探査とその對策（會，篠原節郎，准，吉永齊）

彙報：白杵港棧橋用浮函製作工事概要（准，佐田悅二），都市の防火水道に關する一研究（會，木代嘉樹）

抄錄：モーメント分布に依る函渠の簡易設計，有潮水域へ流出する水の問題，衝力論に依りて計算したる廣頂堰の流量に就て，土砂輸送管內の Rifling の影響，Chickamauga 堰堤地點の大試錐，ガナイトに依る配水用貯水池の法面保護，空燥に對する下水道保護，道路交叉點に於ける中央分離帶，Lowry Field 工事に於けるコンクリート滑走路鋪裝，Hermann-Goring 工業都市，New york 市 East River の新自動車隧道

4. 第 4 回工學會大會に關し次の如く決定せり。

（イ）座長は 12 名としその選定は廣瀨委員長に於て行ふこと。

（ロ）進行係は編輯委員 12 名とし，その補助員は各委員に於て選衡すること。

尙各委員の擔當は次の如し。

法文經 1 號館 1 階 2 號室（廣瀨委員長，岡，松村各委員）

〃 1 〃 2 〃 7 〃（友永，樋浦，黑澤各委員）

〃 1 〃 3 〃 11 〃（佐藤，吉田各委員）

〃 1 〃 3 〃 13 〃（大石，藤野，本間，安藝各委員）

（ハ）講演會注意書を作製提出すること。

5. 抄錄の擔當委員は本間委員の外に黑澤，友永の兩委員を委囑することゝせり。

6. 第 4 回工學會大會に於ける土木學會々長の講演資料の提出を樋浦，吉田，藤野，大石の各委員に依賴し，之等を廣瀨委員長に於て纏めることゝせり。

7. 工學工業年報原稿「土木工學工業展望」は各委員分擔執筆 4 月 10 日頃迄に廣瀨委員長に提出のことゝせり。

調査部記事

コンクリート調査委員會（堰堤コンクリート小委員會）（昭. 15. 2. 13.）

出席者：吉田（德），內村，新井，一木，近藤，畠山，松岡，吉田（赳），大石，伊藤，福島，宮崎

協議事項

1. 第 5 章配合及水量に於ける總則，配合及水量の表はし方，セメントの最小使用量，水量，セメント水重量比又は水セメント重量比，骨材に就き協議す
2. セメントの最小使用量迄は一先づ決定
3. 水量，セメント水比に就いては次回迄に原案修正
4. 骨材に就いては次回に續行

コンクリート調査委員會（堰堤コンクリート小委員會）（昭. 15. 2. 22.）

出席者: 吉田(德), 內村, 畠山, 一木, 佐藤, 水越, 近藤, 吉田(赳), 新井, 杉戸, 松岡, 福嶋, 三嶋, 黑澤, 宮崎, 伊藤

協議事項

1. 第26條より第31條迄逐條審議せり。
2. 巨石の場合割合を研究すること。
3. 第28條以下を書き替へること。

コンクリート調査委員會 (堰堤コンクリート小委員會) (昭. 15. 3. 5.)

出席者: 內村, 大石, 畠山, 佐藤, 近藤, 吉田, 新井, 山岡, 杉戸, 三嶋, 宮崎, 黑澤

協議事項

1. 第5章の各條を修正案に依り逐條審議し第23條及び第28條第2項を削除せり。
2. 第7章を逐條審議せり。

コンクリート調査委員會 (堰堤コンクリート小委員會) (昭. 15. 3. 12.)

出席者: 吉田(德), 內村, 大石, 一木, 伊藤, 水越, 新井, 近藤, 吉田(赳), 山岡, 杉戸, 三嶋, 宮崎

協議事項

1. 第7章第1節の各條を修正案に依り逐條審議し, 第33條及び第34條は同章第2節に編入せり。
2. 第7章第2節第35條及び第36條を削除し, 第37條を第4項まで審議せり。

東北支部記事

東北支部事務所を下記の通り變更せり。

仙臺市東三番町內務省仙臺土木出張所內

商議員3名の增員は次の諸君當選依囑せり。

上野節夫君, 勝目清二君, 高橋清藏君

幹事1名の增員は庄司陸太郎君を依囑せり。

主事氣田政吉君退職に依り後任に貴邦春夫君を依囑せり。

中部支部記事

第2回中部支部岐阜部會座談會 (昭. 15. 2. 17.)

岐阜商工會議所に於て下記次第に依り開催せり

出席者: 田淵支部長外51名

(イ) 德川に於ける三大川の治水工法に就て	平井寬君
(ロ) 木曾川の水力發電情況に就て	石川榮次郎君
(ハ) 飛彈川の水力發電情況に就て	鈴木鹿象君
(ニ) 鐵道省の機構と土木學會員の地位に就て	星野茂樹君
(ホ) 鐵道局の機構に就て	伊藤健雄君
(ヘ) 名古屋鐵道の近況に就て	永田民也君
(ト) 水素イオン濃度 pH に就て	安部源三郎君

その他記事

昭和15年2月20日セメントの增產並に配給に關し最善の措置を講ぜられんことを望む意見書を文部大臣及企畫院總裁に提出せり。

昭和15年2月24日定款變更認可申請書を文部大臣に提出せり。

昭和15年2月29日理事變更並に昭和14年度事業報告及決算報告を文部大臣に屆出せり。

昭和15年3月8日資產の總額並に理事變更の登記を了せり。

昭和15年3月1日土木學會誌第26卷第3號を發行成規の手續を了し, 全會員に配布せり。

入會及轉格會員

會員 (入會)

荒川實君	滿鐵々道總局建設局工事課	寒川朝憲君	滿鐵々道總局建設局工事課	深谷義雄君	東鐵工務部保線課
岡本全男君	土木建築請負業筧組	原正路君	土木建築請負業原正組	古川逐造君	東京電燈會社
小橋朝雄君	株式會社西松組	布施忠司君	滿鐵々道技術研究所		

准員（入會）

阿部三郎君	滿洲國交通部
我孫子尙君	〃
青木俊信君	〃
淺野清之助君	〃
井野綱也君	〃
伊勢新一君	〃
伊藤二郎君	〃
石川文次郎君	〃
岩上義逸君	日本發送電會社
大野茂君	鹽尙北道廳土木課
大山重剛君	滿洲國交通部
加瀨田英男君	東北振興電力會社
金子保三君	京都市水道局上水課
菊池五男利君	增成土木建築會社
菊地庸夫君	滿洲國交通部
楠瀨亘君	山形縣廳土木課
熊野深君	內務省東京土木出張所
小島可克君	岐阜縣廳土木部砂防課
上月慶信君	滿洲國交通部
佐藤傳吉君	〃
酒井延太郎君	岐阜縣廳土木部河川課
諏訪下忠雄君	滿滿國交通部
鈴木良三君	〃
瀨川茂君	〃
大黑勇君	〃
竹中正大君	岐阜縣廳土木部河川課
武田季弘君	滿洲國交通部
照井光夫君	〃
中島四郎君	滿鐵々道總局建設局計畫課
永井正君	鐵道省岐阜工事々務所
永井勉君	東京府廳土木部道路課
西山治三郎君	滿洲國交通部
馬場文夫君	山形縣廳土木課
萩野清君	鐵道省札幌工事々務所
伏谷雄造君	滿洲國交通部
伏屋善次君	岐阜縣廳土木部道路課
前田稔君	大陸科學院土木試驗室
松本三郎君	鐵道省大阪工事々務所
三上正義君	滿洲國交通部
宮澤一郎君	鐵道省札幌工事々務所
村岡正一君	滿洲國交通部
米良治男君	株式會社鹿島組
守屋浩君	滿洲國交通部
矢口明君	〃
柳澤信二君	富山縣富山土木出張所
山之內多門治君	天驕鐵道會社
湯村剛君	滿洲國交通部
渡邊芳太郎君	〃
力石修作君	滿洲儀峨部隊經理部工務課

學生員（入會）

安部晴雄君	仙臺高工
相澤新吉君	〃
淺野國雄君	〃
伊藤淳君	早大專門部
伊藤環君	日大專門部
五十嵐敬輔君	仙臺高工
石上與兵衛君	〃
石田加喜雄君	東大農業土木科
石塚彬君	日大專門部
石原正巳君	仙臺高工
市川一郎君	山梨高工
今成兵司君	仙臺高工
氏家哲郎君	〃
內田俊三君	日大專門部
梅津勳君	〃
梅本鄉輔君	熊本高工
遠藤包義君	仙臺高工
小榊康雄君	東大農業土木科
小野五生君	日大專門部
小原仰君	仙臺高工
及川卓郎君	〃
大木富士雄君	日大專門部
大澤淳之助君	〃
大塚博之君	東大農業土木科
大友道太郎君	日大專門部
加藤等君	〃
片平克雄君	仙臺高工
片山信之君	早大專門部
勝又明君	仙臺高工
金子繁君	日大專門部
神田直彥君	〃
龜田良夫君	東大農業土木科
川崎忠仁君	〃
川島通義君	〃
川原田大作君	日大專門部
木野下光明君	〃
木原則裕君	〃
木村隆雄君	〃
菊池卓三君	〃
岸典二君	東大農業土木科
桑野喜一郎君	日大專門部
小岩井源人君	山梨高工
小林正行君	仙臺高工
權藤淳君	東大農業土木科
佐賀山秀一君	山梨高工
佐々木誠一君	仙臺高工
佐田泰司君	日大專門部
齋藤政治君	仙臺高工
坂野重信君	東京帝大
坂本稔君	仙臺高工
榊原高男君	東大農業土木科
目正次君	日大專門部
匂坂松平君	〃
清水豐三郎君	〃
清水將英君	仙臺高工
鈴木傳三郎君	〃
鈴木靖明君	〃
田口翠君	東大農業土木科
田中太夫君	仙臺高工
田邊一政君	〃
高橋一男君	〃
高橋稔廸君	東大農業土木科
高橋誠君	日大專門部
津田二郎君	仙臺高工
寺邑毅二郎君	日大專門部
土肥賢一郎君	東大農業土木科
德田三雄君	日大專門部
富高日出夫君	〃
銅直雅郎君	早大專門部
中尾哲也君	日大專門部
中島眞一君	仙臺高工
中田正基君	日大專門部

中田照君 コンクリート專修學校
中村康君 日大專門部
中村徹君 東大農業土木科
中村鐵夫君 日大專門部
中村久君 〃
成田敏行君 仙臺高工
西幸一君 熊本高工
西尾辰雄君 東大農業土木科
蜷川達郎君 日大專門部
畑瀬達介君 〃
濱野充理泰君 東大農業土木科
林茂雄君 仙臺高工
原正信君 日大專門部
平山嘉郎君 仙臺高工
布留信彦君 日大專門部
藤井良三君 熊本高工
藤田盛光君 仙臺高工
古屋鐵雄君 日大高工
星子兼一君 仙臺高工
星野正公君 〃
細川捷男君 日大專門部
米谷秀夫君 仙臺高工
牧野幸次君 〃
正木利雄君 日大專門部
松浦忠雄君 仙臺高工
松田勝快君 日大專門部
松原今朝之進君 仙臺高工
松村嘉雄君 日大專門部
三浦富美雄君 仙臺高工
三木一二君 日大專門部
水間德太郎君 日大專門部
箕輪田順三君 〃
宮岡熊五郎君 〃
宮澤芳朗君 〃
宮田兼雄君 〃
茂木俊之助君 〃
安田稔君 仙臺高工
山田邦男君 〃
羅永淵君 日大專門部
羅慶南君 〃
若山庚一郎君 〃
脇山清一君 仙臺高工
渡邊一郎君 日大專門部

會社名變更

(新) 九州電氣株式會社　　(舊) 熊本電氣株式會社

土木學會々員數

會員	准員	學生員	特別員	賛助員	合計
3 361	4 419	1 467	91	27	9 365

會員　高田　景君昭和 15 年 2 月逝去せられたり，本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

會員　小野澤藤三郎君の訃報に接す，本會は恭しく哀悼の意を表す

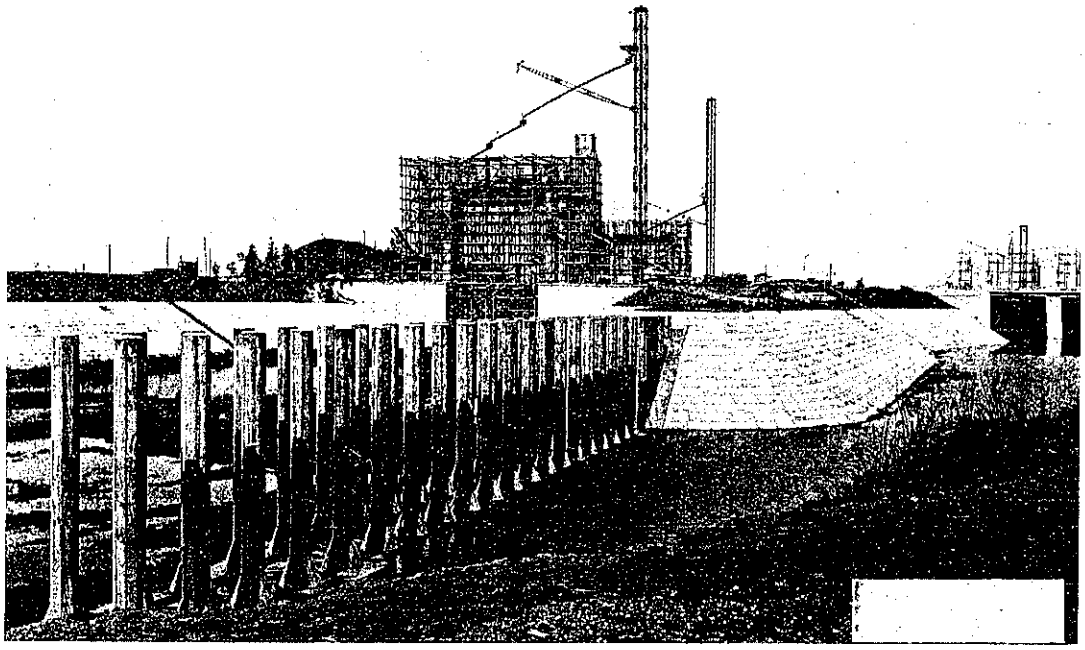
准員　杉本芳一君昭和 15 年 1 月 22 日戰傷死せられたり，本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

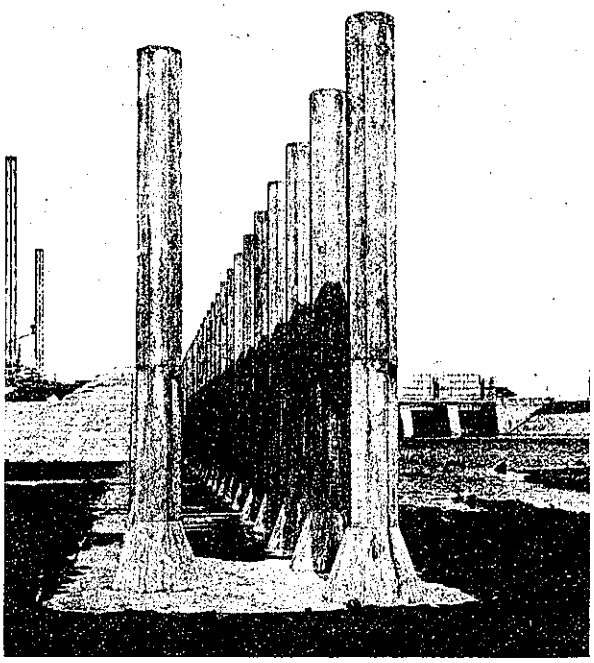
准員　多胡一三君，渡邊有友君の訃報に接す，本會は恭しく哀悼の意を表す

學生員　岡村武彦君の訃報に接す，本會は恭しく哀悼の意を表す

竣功近き江戸川河水統制水門工事（其の1）

（概要は本誌第 24 卷第 7 號工事寫眞欄參照）



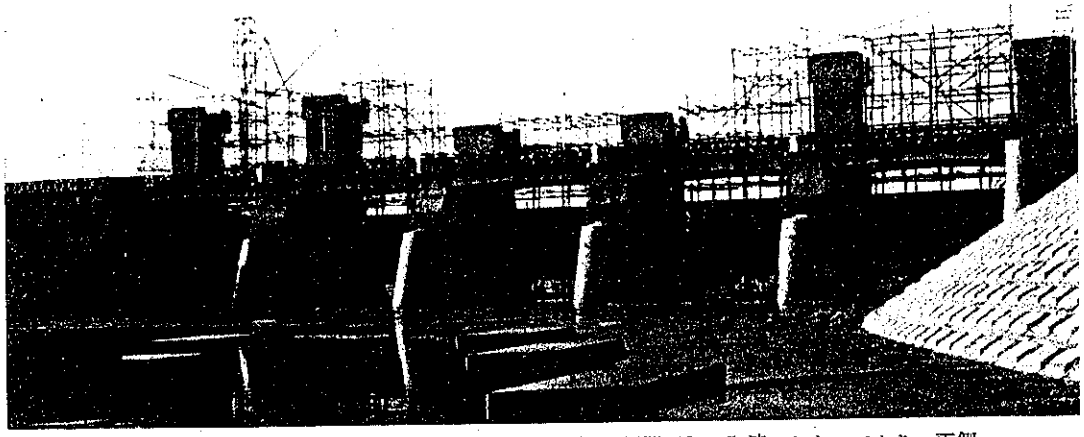


上圖は下流側より工事中の閘門を望む（昭 15. 3. 16.），右に少し見えるのは水門である。閘門は機械室のコンクリート打，閘室の法張りが殘つてゐる。

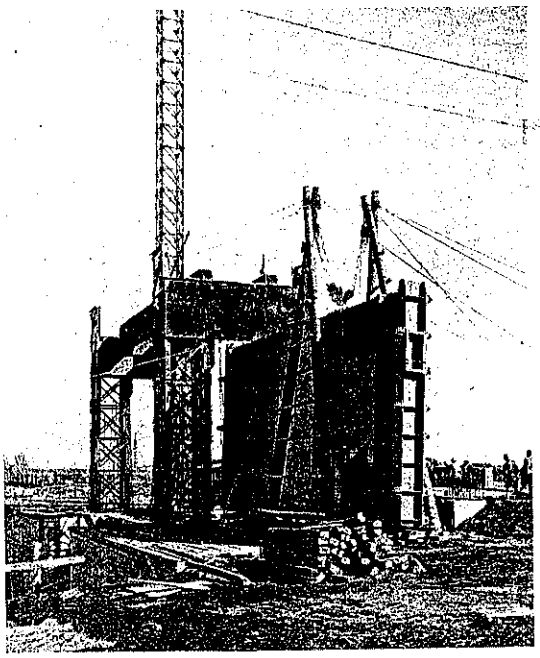
左圖は導流杭（昭. 15. 3. 16.）高さ 5 m，八角柱である。杭出しの長さ等は內務省土木試驗所で實驗した結果に依つた（同所報告第 40 號を參照）。

竣功近き江戸川河水統制水門工事（其の 2.）

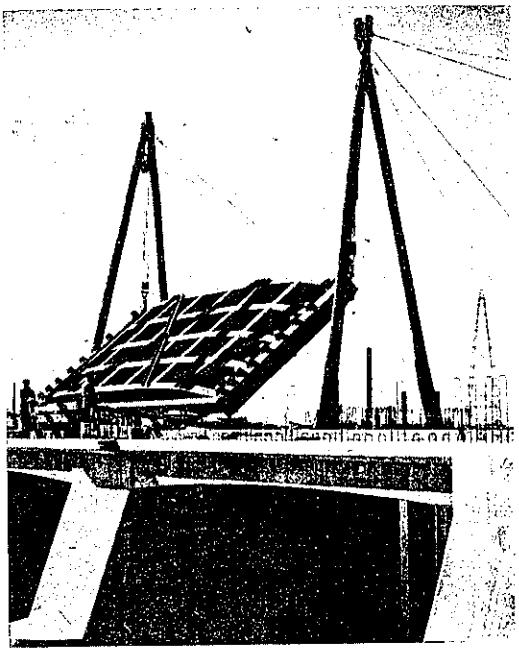
（概要は本誌第 24 卷第 7 號工事寫眞欄參照）



下流側より工事中の水門を望む（昭. 15. 3. 12.）。徑間 10m 5 連よりなつてをり，兩側の徑間は平時船の通航に使用するため高くしてある。湯水時には高さ 5m の鋼扉（全熔接）を閉鎖し，水位を上昇せしめ水門上流取水に支障なからしめる。



閘門上扉室主扉吊込作業（昭. 14. 2. 8.）。扉は重量約 33 ton 高さ 6.5 m, 長さ 13.8 m, 電氣熔接である。鋲接に比し重量 20％ を輕減し對重捲揚機等も著しく經濟となつた。



水門扉吊込作業（昭. 14. 2. 18）。扉は重量約 18 ton, 高さ 5 m, 長さ 11 m 全熔接である。

正誤訂正表

不完全彈性構造用材よりなる抗壓材の安定

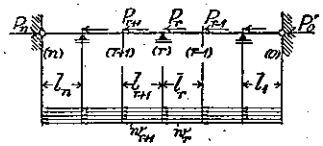
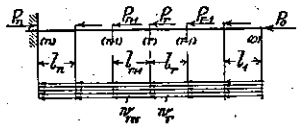
（第 26 卷第 3 號所載）

頁	行	誤	正
348	2	圖-1	圖-1～2
〃	9	$\sigma^k=(\sigma_E-p\cdot\sigma_s)/1-p)$	$\sigma_k=(\sigma_E-p\cdot\sigma_s)/(1-p)$
〃	下 11	圖-1～2 E_1 の如き	圖-1～2 で E_1 の如き
〃	下 9	假定する，	假定すると
〃	下 8	$\sigma_k=(\sigma_E-q\cdot\sigma_\beta)/(1-q)$	$\sigma_k=(\sigma_{E_1}-q\cdot\sigma_\beta)/(1-q)$
〃	圖-1	σ_E'	σ_{E_1}
〃	下 1	$\left(\frac{l}{i}\right)_{E_1}=\pi\sqrt{\frac{E_1}{\sigma_k}}$	$\left(\frac{l}{i}\right)_{E_1}=\pi\sqrt{\frac{E_1}{\sigma_k}}$
350	1	圖-6 σ_D～σ_ε 曲線圖	圖-6 σ_D～ε 曲線圖
〃	下 12	圖-7 σ_D～σ 曲線圖	圖-7 σ_D～ε 曲線圖
352	7	木檜抗壓材	檜抗壓材
〃	下 7	圖-15 のやうに	圖-13 のやうに
〃	下 2	曲線を求めんと	曲線を求めると
353	下 4	圖-28	圖-27
353	1	圖-21 抗壓材の鉛	圖-21 鉛抗壓材
353	14	圖-23 鉛抗壓材の 挫屈後の狀態	圖-23 鉛抗壓材 挫屈後の狀態 $d=3^{mm}$
354	16	(3) 抗壓材の降伏圖	(3) 抗壓材の材料の σ_D～ε の 降伏圖
354	17	檜材と鉛材	檜抗壓材と鉛抗壓材

誤 正 表

連續柱の挫屈强度に關する計算理論

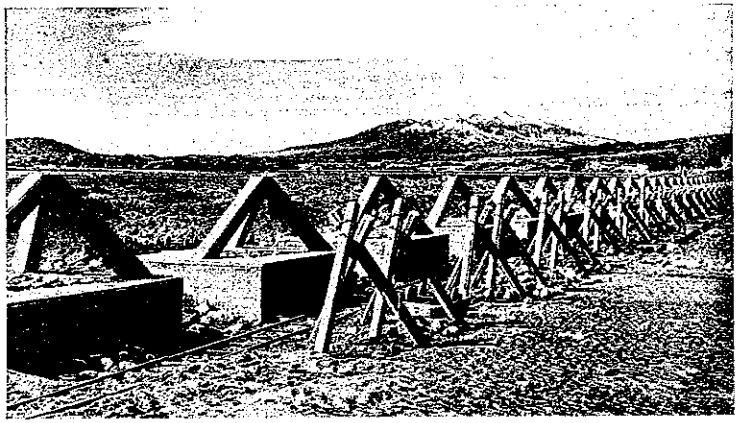
（第 26 卷第 2 號所載）

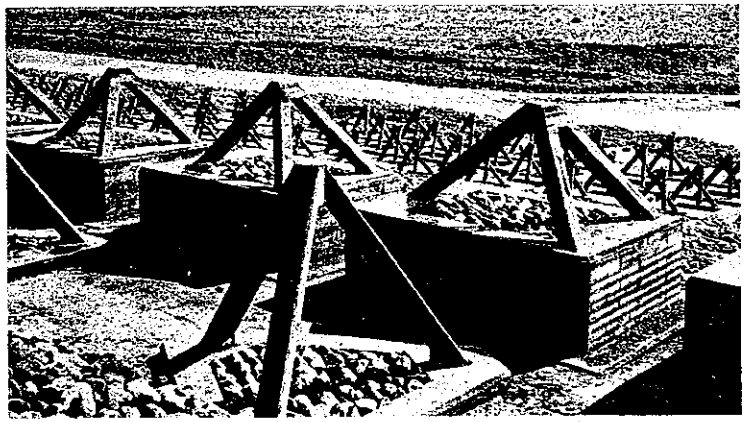
頁	行	誤	正
144	下より 17	荷重條件 $w \neq 0$ が成立する‥‥	荷重條件 $w=0$ が成立する‥‥
145	11	$\left[\frac{d^3 y_i}{dx^3}\right]_{=0} = \cdots\cdots$	$\left[\frac{d^3 y_i}{dx^3}\right]_{i=0} = \cdots\cdots$
〃	17	$\cdots\cdots = E_r I_r \left[\frac{d^3 y}{dx^3}\right]_{i=r-1}^{l_{rr+1}}$	$\cdots\cdots = E_r I_r \left[\frac{d^3 y}{dx^3}\right]_{i=r-1}^{l_r}$
146	表-1 第四場合		
148	7	微分方程式が齊次である爲	微分方程式の右邊が零であるため
〃	16	‥‥格點に截切して	‥‥格點にて截切して
〃	下より 3	$\cdots\cdots + l_{r-1} + \cdots\cdots = \sum_{i=n}^{r} l_i$	$\cdots\cdots + l_{r+1} + \cdots\cdots = \sum_{i=n}^{r} l_i$
150	7	$\cdots\cdots = \zeta_r^2 = p'_{\mathrm{III},r}$	$\cdots\cdots = \zeta_r^2 p'_{\mathrm{III},r}$
〃	17	$p_{\mathrm{I},r}^{(0)} = \cdots\cdots$	$p_{\mathrm{I},r}^{(1)} = \cdots\cdots$
152	下より 4	9	0
154	第一段 1	$p_{\mathrm{I},1}^{(1)} p_{\mathrm{II},1}^{(1)} - \cdots\cdots$	$p_{\mathrm{I},1}^{(0)} p_{\mathrm{II},1}^{(1)} - \cdots\cdots$
〃	第一段 5	$p_{\mathrm{III},n}^{(0)} p_{\mathrm{I},n}$	$p_{\mathrm{III},n}^{(0)} p_{\mathrm{I},n}^{(1)}$
〃	第二段 2	$\frac{2}{b_1} p_{\mathrm{I},1}^{(0)}$	$\frac{2}{b_1} p_{\mathrm{I},1}^{(1)}$
155	12	$p_{\mathrm{III},n}^{(0)} - p_{\mathrm{II},n}^{(1)}$	$p_{\mathrm{III},n}^{(0)} \cdot p_{\mathrm{II},n}^{(1)}$
〃	下より 10	特殊なる場合としても	特殊なる場合として
156	17	$= \kappa_{n-2,n-1} \cdot l_0$	$= \kappa_{n-2,n-1} \cdot z_0$
157	表-A の挿圖	端の結種條類件 / 第一番 / 第二番 / 第三番 / 第四番 / 第五番	端の結種條類件 / 第一場合 / 第二場合 / 第三場合 / 第四場合 / 第五場合
			（α は其の儘）
158	下より 6	Z_0	z_0
〃	7	F_r	F_r

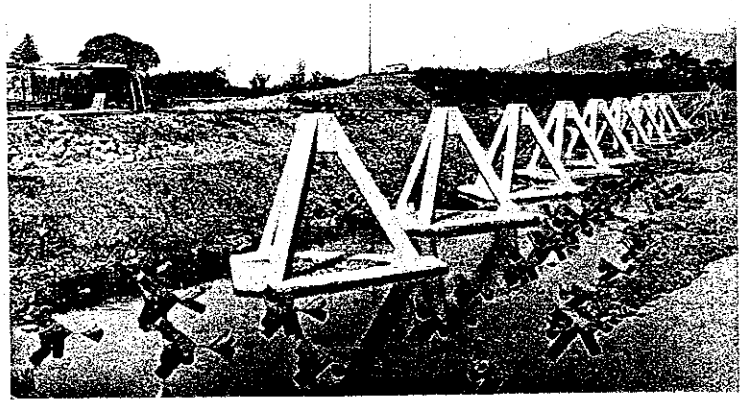
頁	行	誤	正
158	下より 3	$-\frac{1}{m_n^2} \quad 0 \quad 0 \quad 0$	$-\frac{1}{m_n^2} \quad 0 \quad 0 \quad 1$
159	表-7 第三場合 3	$-\frac{\sin m_1 L_1}{m_1}$	$+\frac{\sin m_1 L_1}{m_1}$
〃	同 4	$-\frac{1}{m_n} \quad 0 \quad 0$	$-\frac{1}{m_n} \quad 1 \quad 0$
〃	表-8		記號追加： $\gamma_i = 2\frac{P_i}{Q_i} - 1$
162	5	$\sin m\, L_1$	$\sin m_1 L_1$
〃	11	$\bar{D}\,(A_1 D_1 C_n C_n)$	$\bar{D}(A_1 D_1 B_n C_n)$
〃	下より 4	$\kappa_{i.i-i}$	$\kappa_{i.i-1}$
163	下より 6	ρ の値の	μ の値の
164	6	$p_{\mathrm{II}}^{(1)}(l) = 0$	$p_{\mathrm{II}}^{(1)}(l) = 1$
〃	13	最小棍	最小根
167	10	$1+\gamma$	$1+\gamma_1$
171	式番號	‥‥‥‥‥‥(6)	‥‥‥‥‥‥(b)
172	下より 3	3,9269	2,9269
175	2	$(\cdots\cdots)(1-\gamma_1)+1$	$(\cdots\cdots)(1-\gamma_1)-1$
〃	下より 6	此も部分法則	此の部分法則
176	16	O_{i-1}	Q_{i-1}
〃	18	$-\frac{1}{m_i}$	$-\frac{1}{m_i}$
181	15	‥‥の似値	‥‥の近似値
〃	下より 5	$\cdots\cdots\frac{Q_4}{\lambda_5} Q'$	$\cdots\cdots\frac{Q_4}{\lambda_5} = Q'$
182	下より 8	$x = \frac{1}{\phi}\left(\frac{\phi}{2}\right)$	$x = \frac{1}{\phi}\left(\frac{\pi}{2}\right)$
183	1	表-18. ‥‥ 表-19. ‥‥	表-18. ‥‥(第一場合). 表-19. ‥‥(第一場合).
185	20	表-16 に‥‥	表-16, 17 に‥‥
189	下より 1	E	E_i
192	下より 11	S. 273	S. 270

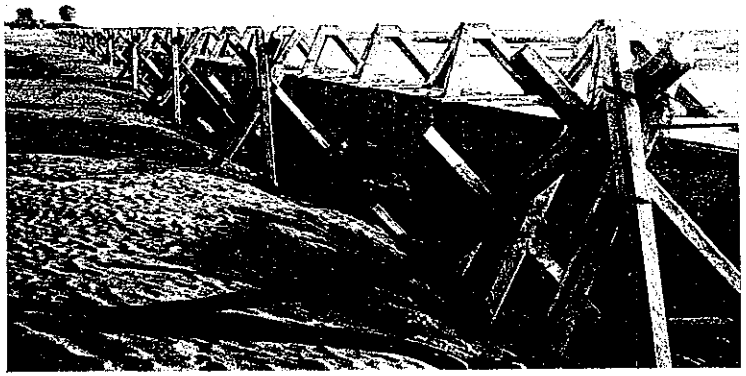
富士川で試みられた新しき水制

内務省東京土木出張所施工による水制で何れも縦工であつて導水堤の役をしてゐる。寫眞右下は昭和 10 年竣工，其の他は昭和 14 年竣工のもので其の後數次の洪水に遇つてゐるが豫期の效果を擧げてゐる。水制本體の構造は鐵筋コンクリートで其の高さは 3～4 m である。



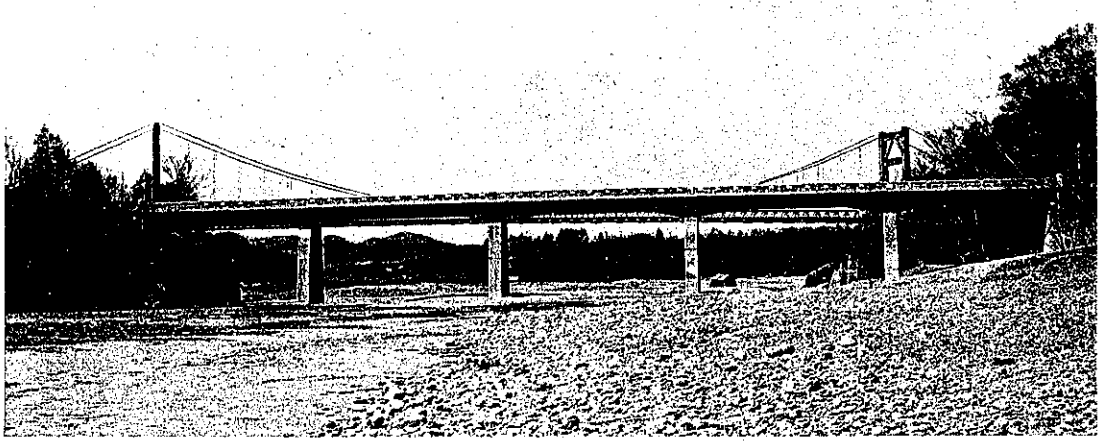


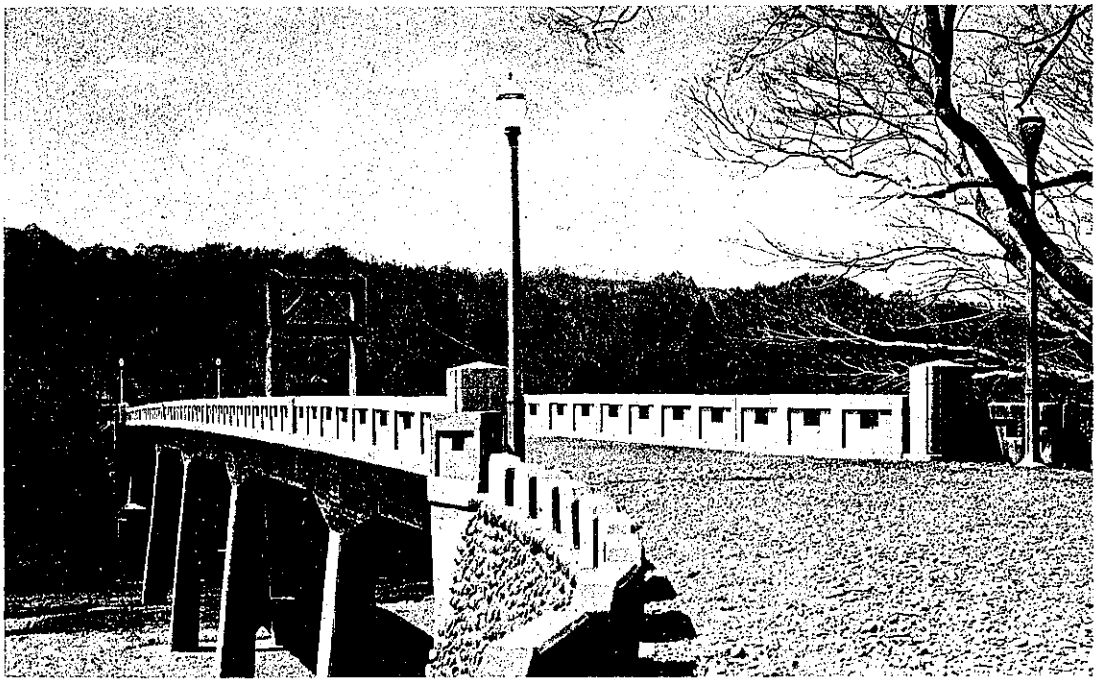




竣功せる多摩川橋（東京府）

（時報欄參照）





上圖は下流側より見たるもの（後方に見える吊橋は舊橋）にして，下圖は左岸より見たるもの

圖書室及娯樂室御利用に就て

本會所有の圖書及雜誌は本會圖書室に備付けてありますから，下記時間內御隨意に御閱覽下さい。尙娯樂室には碁，將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日
自1月4日至7月20日　自午前9時至午後8時，　自7月21日至8月31日　及土曜日　自午前9時至午後4時，

但し　日曜及祭日は休み

圖書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の圖書雜誌を整理し，圖書室を設備致しました。又新に本會誌に**新刊紹介欄**を設け，新刊書の內容を紹介する事に致しましたから，會員の著書其の他圖書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる樣御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會，見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから，未だ佩用せられない方は至急御申出で下さい。

1. 寸法徑 14 mm
2. 品種　銀地金文字浮出し
3. 種類　詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費　金 50 錢（郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す）

（實物大）

寄稿に關する注意

1. **用　紙**　成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。

2. **頁　數**　頁數は本會の本會誌 15 頁（原稿用紙 90 枚）以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお斷りすることがあります。

3. **文　體**　文體は文章的口語體とす。本文に重要な關係のない前置，挨拶等は省く事。この方針に基き適當の字句の修整，短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。

4. **書　體**　横書とし，假名は平假名，數字は算用數字，ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u，u と v，r と τ，a と α，r と γ，d と δ，その他 C と c，K と k，O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。

5. **數字名數**　數字は 3 桁毎に間隔をあける事名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば

35 錢（三十五錢），13.56 圓（十三圓五十六錢），1～4 時間（一時間乃至四時間），
88 326 t（八萬八千三百二十六瓲），昭. 14. 1. 1.（昭和十四年一月一日），
m（米），m^3（立方米），kg（瓩），83.4 尺（八丈三尺四寸）

6. **用　語**　用語は本會制定用語に依られ度し（本會制定用語は本會發行の土木工學用語集參照）。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。

7. **圖　表**　(1) 圖表は圖-1，表-1 等と書き圖表題を記すこと。
(2) 複雜なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 圖面はその儘縮寫し得る樣にトレーシング ペーパー，オイル ペーパー，トレーシング クロース等とすること。
(4) 圖表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さゞる事。
(5) 方眼紙は青罫のものを用ひ（黄色，赤色の罫は使用せざる事）縱横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 圖表の文字數，字は特に大きく書かれ度し，縮寫の標準は 1/2～1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2 mm 程度となる樣され度し。
(7) 圖表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。

8. **寫　眞**　寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。

9. **其の他**　(1) 論說報告は邦文に限る。
(2) 講演及論說報告には必ず英文表題及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。

附　記　(1) 論說報告，彙報，時報，抄錄及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 講演，論說報告の各欄に掲載の分には別刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に應じます。

556-4